

第19回スポーツ・ボランティア・リレートーク レポート

2013年1月31日(木) 19時より21時

青葉区中央市民センター 第3会議室

参加者 11名

みやぎびっきの会活動報告 ～ 子供たちの夢への支援
一般社団法人 みやぎびっきの会 事務局長 金谷 俊範 氏



【はじめに】

こんにちは、金谷と申します、本日はよろしくお願ひいたします。

さっそくですが、「みやぎびっきの会」は2005年からコンサートなどを開いて、その収益の一部で楽器のリペア代(修理代)を負担し県内の学校の支援をしてきました。2011年の3月にコンサートを予定していたところ、あの震災があり開催できなくなってしまい、その後現在の代表のさとう宗幸さんが活動の幅を広げるという事で「びっき子ども基金」を立ち上げてこれまで活動してきました。

【震災から一年間の活動】

私たちはいろいろ考えた結果一般社団法人としてスタートしました。最初はNPOとして法人格の取得も検討しましたが、現在では、正しい選択だったと思っています。

(プロジェクターで、資料を投影して説明。最初は被災地の写真)

あの震災があり写真にあるように本当に大きな被害がありました。その後、私たちも被災地に入り、実際にそこにいる子どもさんが希望するものを支援するという事に決めました。2011年の最初の活動は、石巻高等学校へ避難所から通学している生徒さんへ約3ヶ月間昼食の支援を、さまざまな所に協力いただきながらおこないました。実はみやぎび

びっきの会の事務局は2人だけです。そのため、しばらくの間の被災地支援についての情報は、文科省のまなびのポータルサイトからとって支援してきました。実際に現地に入り打ち合わせをして支援するのですが、2011年はものの支援がほとんどでした。

【ハワイ・レインボーキッズ・プロジェクトについて】

ハワイの有志の方が集まって、東日本大震災で被災した子どもたちや、東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響で避難している子どもたちに対し、「こころの支援」をしたいという考えからスタートしたのが、「ハワイ・レインボーキッズ・プロジェクト」で、未来を担う子どもたちを、自然豊かなハワイへ招待し、自然や文化などに触れ、ハワイの子供たちと交流することで夢や希望を持ち、広い世界に向け未来に向かって力強く歩いて行ってもらいたいと願っての企画です。みやぎびっきの会は被災地に近い宮城県仙台市に活動拠点を置く団体として、より迅速かつ的確に子どもたちをハワイへ送り届けるのが役目で、たくさんの方々の協力もあり、これまでに5回実施することができました。昨年8月には、1回めから3回めまでの子供たちの同窓会も開催し、非常に喜んでいただきました。対象は岩手・宮城・福島の被災地に住む中学生で、各県の教育委員会を通じて人選していただいています。最初はいろいろな不安を抱えて参加する子供たちですが、ウクレレを創ったり、ドトールの農園や火山を訪れたり、きれいな夜空をみたりする中で子供同士交流を深め、地元のボランティアのみなさんのもてなしや子ども同志の交流などを楽しむことで、提出していただいている作文をみると確実に成長していることがわかります。事前の説明会から大変なこともあります。がぜひ継続していきたいと考えています。

【2012年の活動について】



2012年は3月に被害の大きかった女川の東日本大震災の一周忌追悼式に、びっきの会メンバー全員で参加し、歌を歌わせていただきました。

スポーツにかんする活動というと、2012年3月にミニバスケットボール女川フィーバーエンジェルスへの支援をさせていただきました。これは、全国ミニバスケットボールという大会があり、全国から男女各48チームが参加し開催されるもので、震災後ということで遠征にかかる宿泊費や交通費への協力を求められたものでした。会場にはびっきの会メンバーの山寺さんや小柴さんもかけつけ応援しましたが、子どもたちのはつらつとしたプレーに私達も元気をいただきました。

その後、2012年5月には、原発事故による放射能の影響で福島県の浪江中学校の全校生徒約400名が避難し、そのうち49名の生徒が二本松の廃校を使って学んでいるということで、不足していた教材などを支援しました。また、同じく2012年7月には、南三陸町の自主的な学習のスペースである TERACO の支援を行い、びつき棟という建物の完成に協力しました。開所式には理事長のさとう宗幸をはじめメンバーが参加しミニコンサートを行いました。

また、元中日や西武で活躍した種田仁選手による野球教室や、8月には白石の越河地区のこどもたちをYMCAの協力で保養地キャンプへ連れて行き、キャンプファイヤーや地引網などを通じて、久しぶりに屋外でおもいきり遊んでもらいました。また、さきほどの浪江中学校の子供たちへの第二弾の支援として、よさこい祭りで踊りたいという要望があり、そのためのはっぴをはじめとする衣装などを寄付させてもらいました。9月には南三陸町の戸倉中学校の運動会の開催にあたり、アーチ型の門や参加賞の準備などをお手伝いしました。また、気仙沼のスポーツ少年団の野球チームには、津波被害で失われたユニフォームを提供し大変喜ばれました。そして10月、浪江中学校の文化祭が開催され、私達の活動に協力してくれた特別ゲストも参加し、そろいのはっぴでよさこい祭りの踊りも披露され、たいへん盛り上がりました。このほかにも2012年は楽器のリペアをはじめたくさんの方の協力もあり、さまざまな活動を行いました。

【これからに向けて】

震災から時間が経過し、資金的に余裕のある団体は活発ですが、資金力のない団体は撤退しつつあります。私達びっきの会のこども基金への寄付も減少傾向にあり、被災地や被災者の現状を考えると、もう一度震災を思い出してもらうことが大切だと思います。現在、ふるさと復興プロジェクトというものがあり、毎月11日に学校で活動しています。そこにサミットがありこどもたちから復興ソングを作りたいという声がありましたので、子どもたちから詞を募集し曲をつける取組を予定しています。この曲は今年の8月ごろに仙台市とタイアップして発表することを予定しています。また、ドリームチェーンのコンサートも8月に開催します。

被災地にも変化が生まれてきています。最近では自分達でやろうと考え、支援をことわられることもでてきました。一方で原発の放射能の影響のある福島は同じ被災地でも違う問題もでてきています。当初はもの、最近では夢。もとめられるものの変化を感じているところです。

私達には「情報・人・資金」が必要ですし、これからもつかずはなれず、求められたことを、どろくさくても継続的に長くやることを大切にしたいと思います。

【文責 泉田 和雄】